

第4章  
子 育 て



図4-1-1は、母子世帯、父子世帯、養育者世帯の子どもの健康・発達の状況を示したものです。

いずれの世帯も、「みんな健康である」という回答が最も高く、7割程度を占めています。その他の実態について詳細を見ると、母子世帯では、「通院している病気がある子がいる」という回答が11.8%とその他の世帯よりも高く、「障害がある子がいる（難病をのぞく）」が8.1%、「発達に遅れのある子がいる」が9.1%でした。父子世帯では、「通院している病気がある子がいる」が7.1%、「障害がある子がいる（難病をのぞく）」が8.1%、「発達に遅れのある子がいる」が8.1%でした。

養育者世帯は、「発達に遅れのある子がいる」という割合が21.3%と特に高く、「障害がある子がいる（難病をのぞく）」という項目についても、14.7%と高い割合を示していることがわかります。

図4-1-1 お子さんの健康・発達の状況はいかがですか（複数選択）

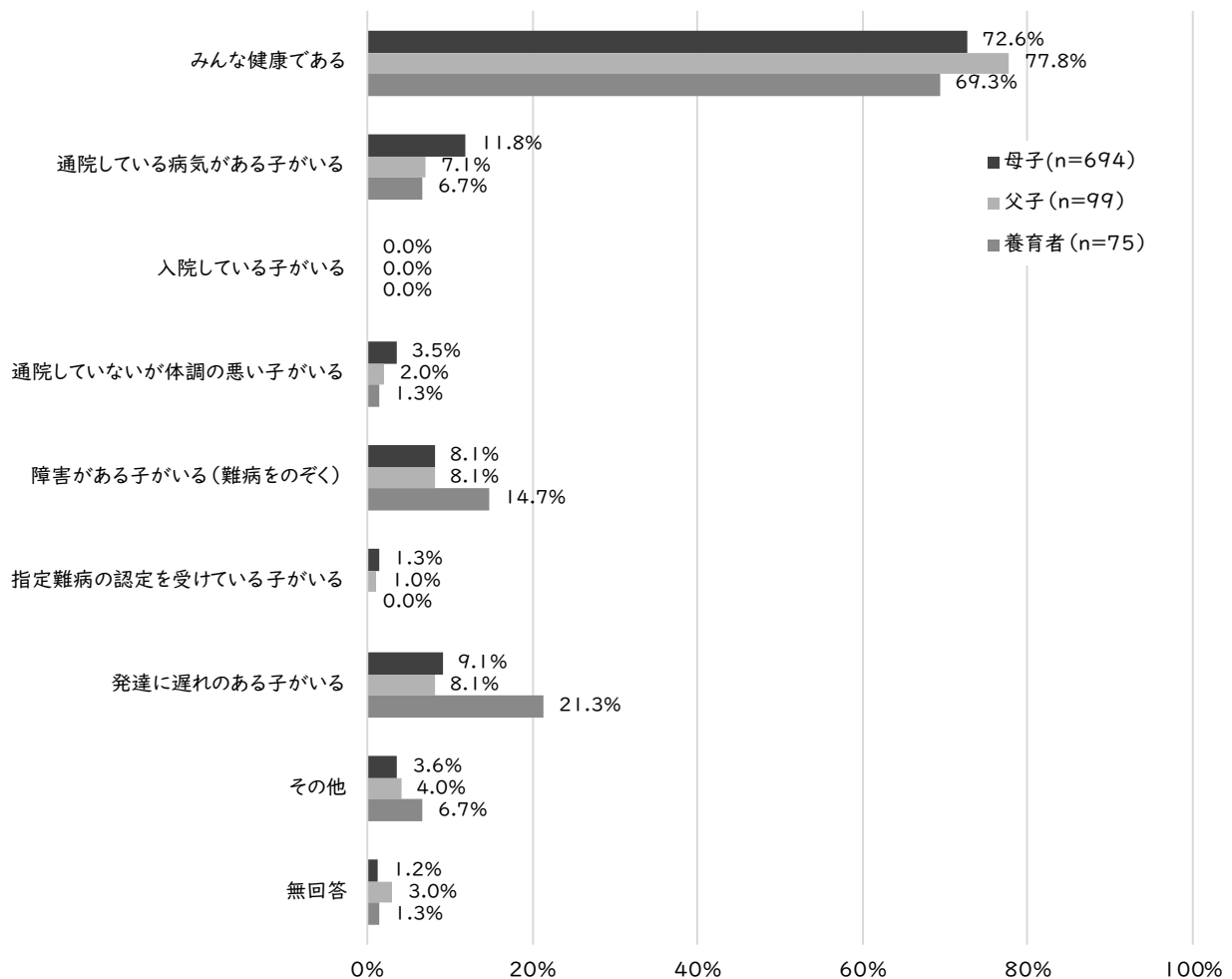
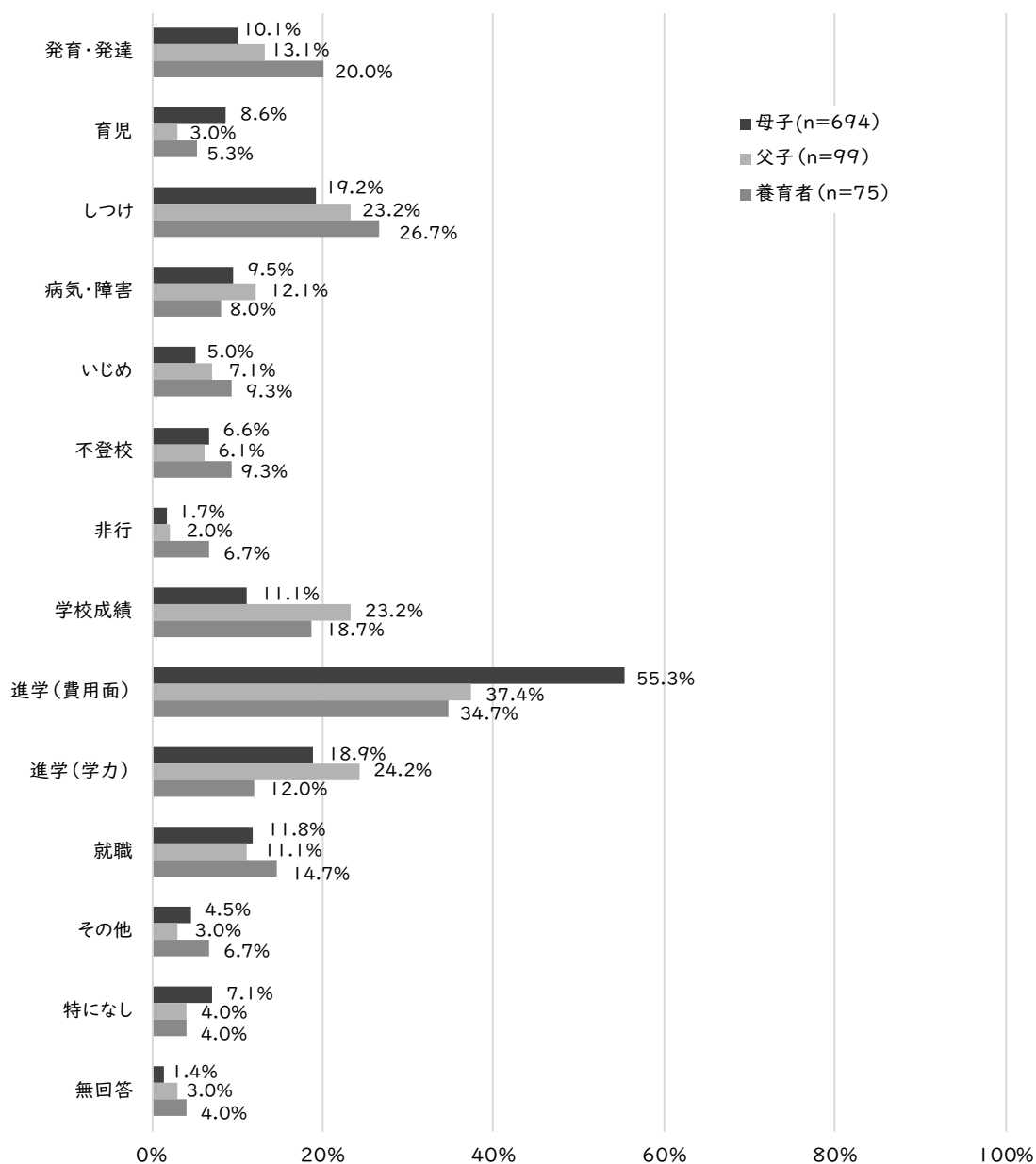


図4-2-1は、子育てについて、どのような不安や悩みがあるかを整理したものです。いずれの世帯も、「進学（費用面）」に不安や悩みを抱えている割合が最も高く、特に、母子世帯では 55.3%と高くなっています。父子世帯では、「進学（学力）」が 24.2%と高く、これと関連して、「学校成績」に不安や悩みを感じるという回答が 23.2%と高くなっていました。養育者世帯では、「しつけ」（26.7%）や「発育・発達」（20.0%）という割合が母子世帯、父子世帯よりも高くなっています。

図4-2-2と図4-2-3は、母子世帯と父子世帯の経年比較を行ったものです。特に、父子世帯では、「進学（費用面）」の不安が約 10 ポイント低下するという変化が見られました。

図4-2-1 子育てについて、どのような不安・悩みを感じますか（2つ選択）



## 経年比較

図4-2-2 【母子】子育てについて、どのような不安・悩みを感じますか(2つ選択)

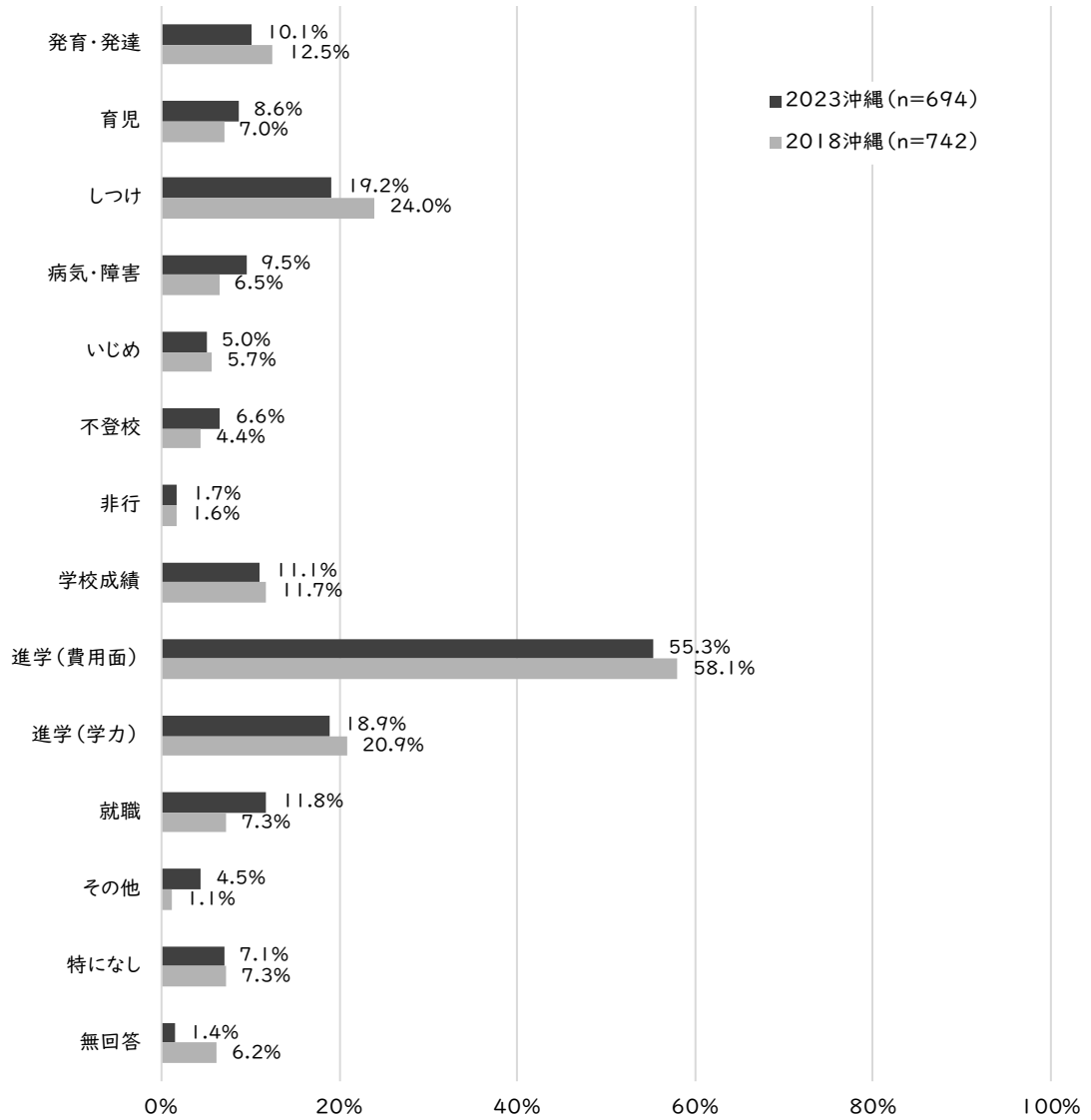
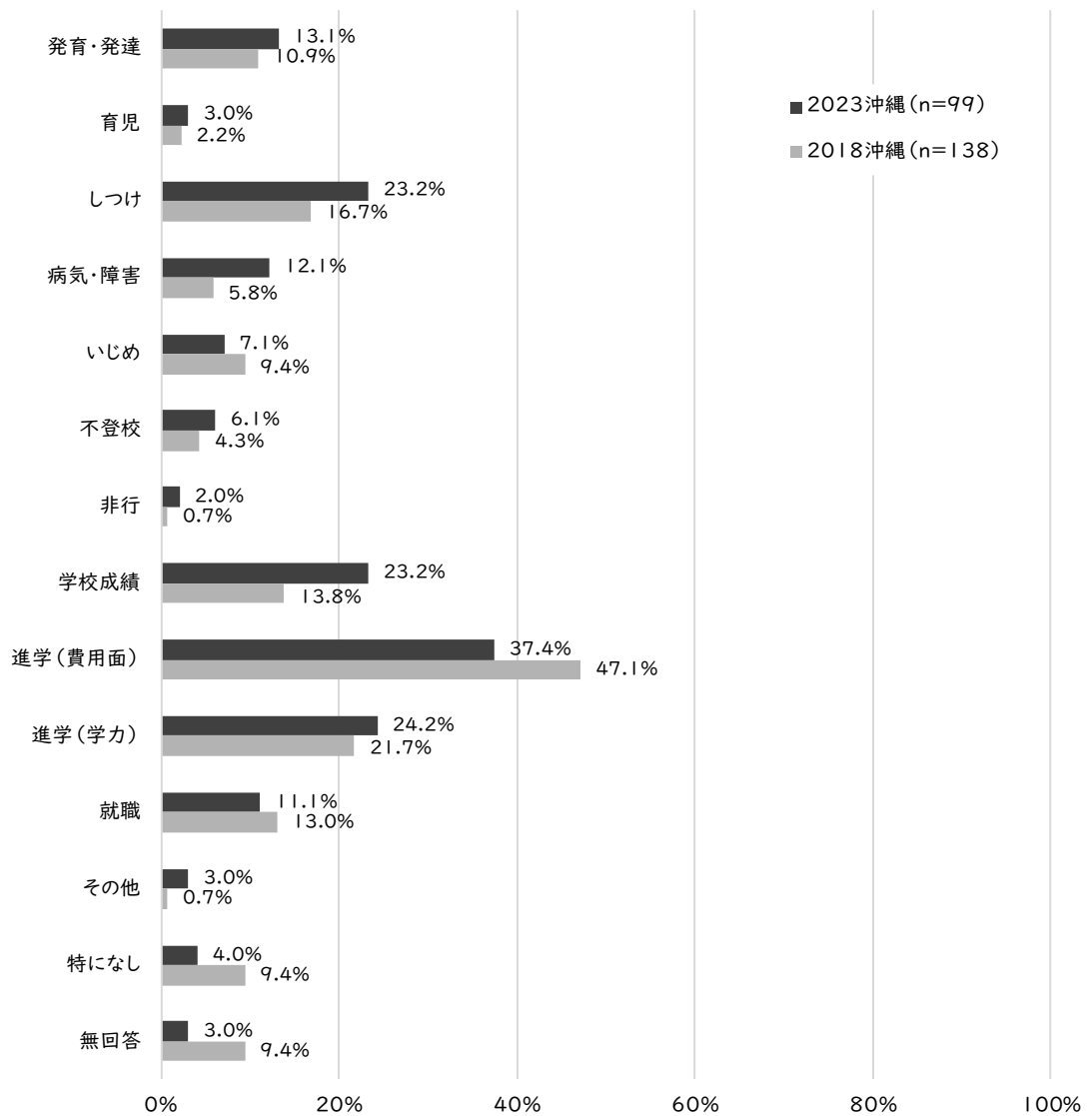


図4-2-3 【父子】子育てについて、どのような不安・悩みを感じますか(2つ選択)



### 第3節 経済的に負担に感じていること

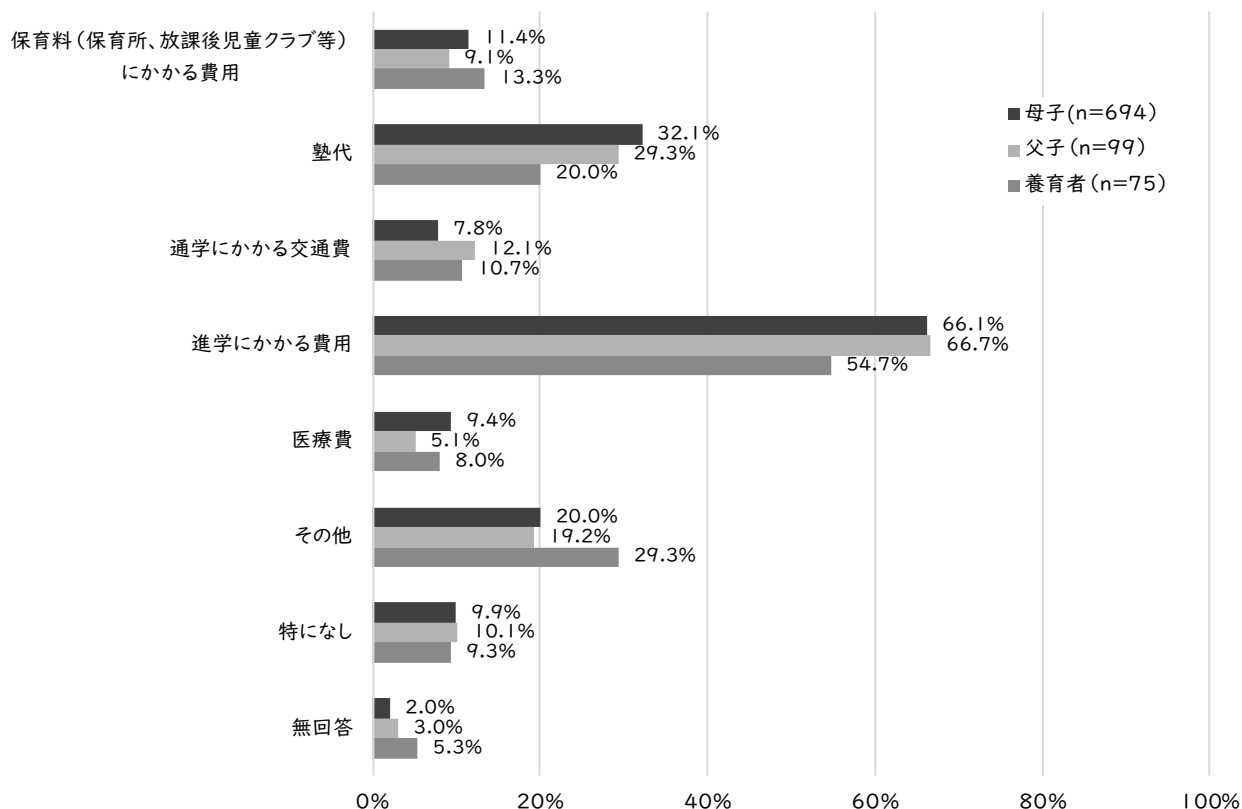
図4-3-1は、子育てに関して経済的に負担に感じていることについて整理したものです。いずれの世帯も、「進学にかかる費用」を負担に感じるという回答が高く、母子世帯で66.1%、父子世帯で66.7%、養育者世帯で54.7%でした。続いて、「塾代」の割合が高く、母子世帯で32.1%、父子世帯で29.3%、養育者世帯で20.0%となっています。

また、「その他」という回答も、母子世帯で20.0%、父子世帯で19.2%、養育者世帯では29.3%となっています。この詳細については、把握できていませんが、学校の教育費（学校で払う教材費等）のほか、娯楽費や携帯代金などの費用等が想定されます。

図4-3-2、図4-3-3は、母子世帯と父子世帯の「子育てに関して経済的に負担を感じていること」を経年比較した内容です。母子世帯、父子世帯ともに、いずれの年度も「進学にかかる費用」を負担に感じるという回答が高くなっているのがわかります。ただし、母子世帯、父子世帯ともに、2018年から2023年にかけてその割合は上昇傾向にあります。具体的には、2018年から2023年にかけて、母子世帯では、57.3%から66.1%へ、父子世帯では2018年の52.2%から2023年の66.7%へと14.5ポイントも増大しています。

「塾代」という回答も経年的に高く、特に父子世帯では今回調査にかけて上昇しています。このほか、母子世帯、父子世帯ともに、「その他」が大きく上昇しています。一方、「医療費」については、経年的に低下傾向にあることがわかりました。

図4-3-1 子育てに関して経済的に負担に感じていることは何ですか（2つ選択）



経年比較

図4-3-2 【母子】子育てに関して経済的に負担に感じていることは何ですか(2つ選択)

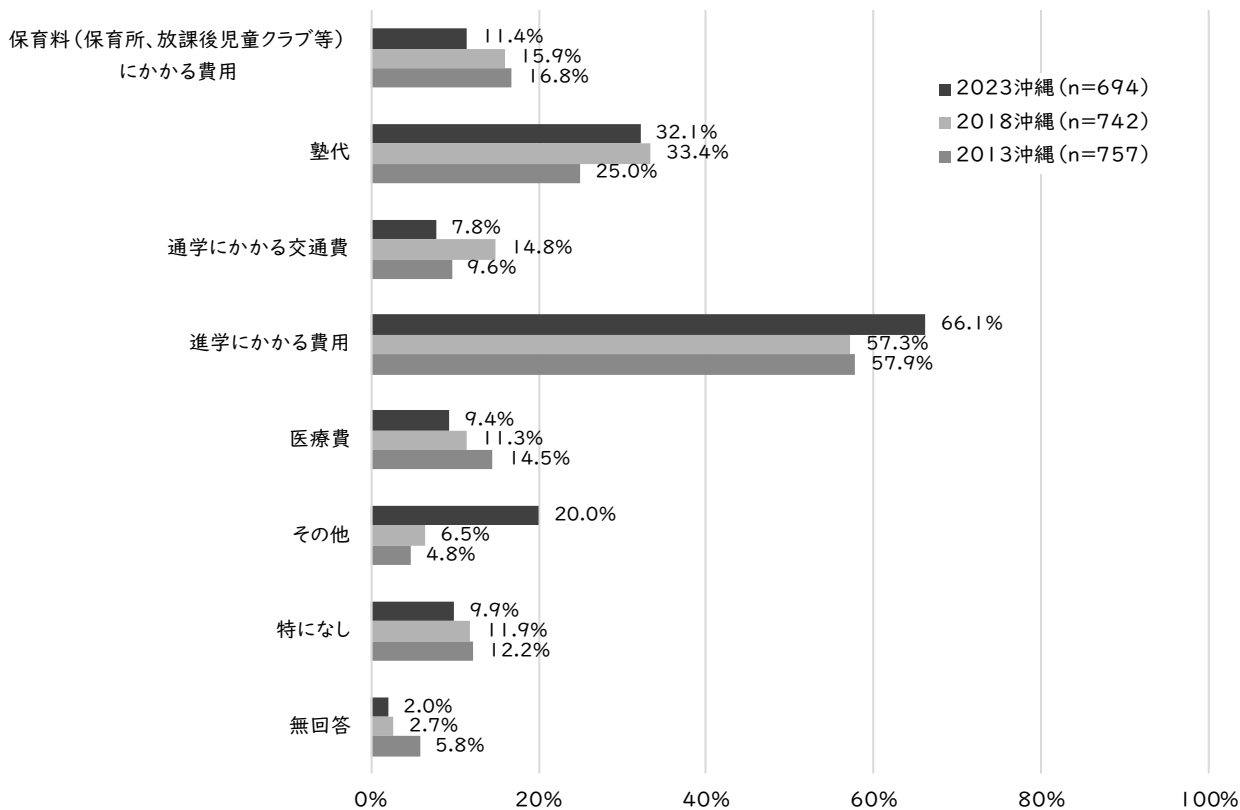
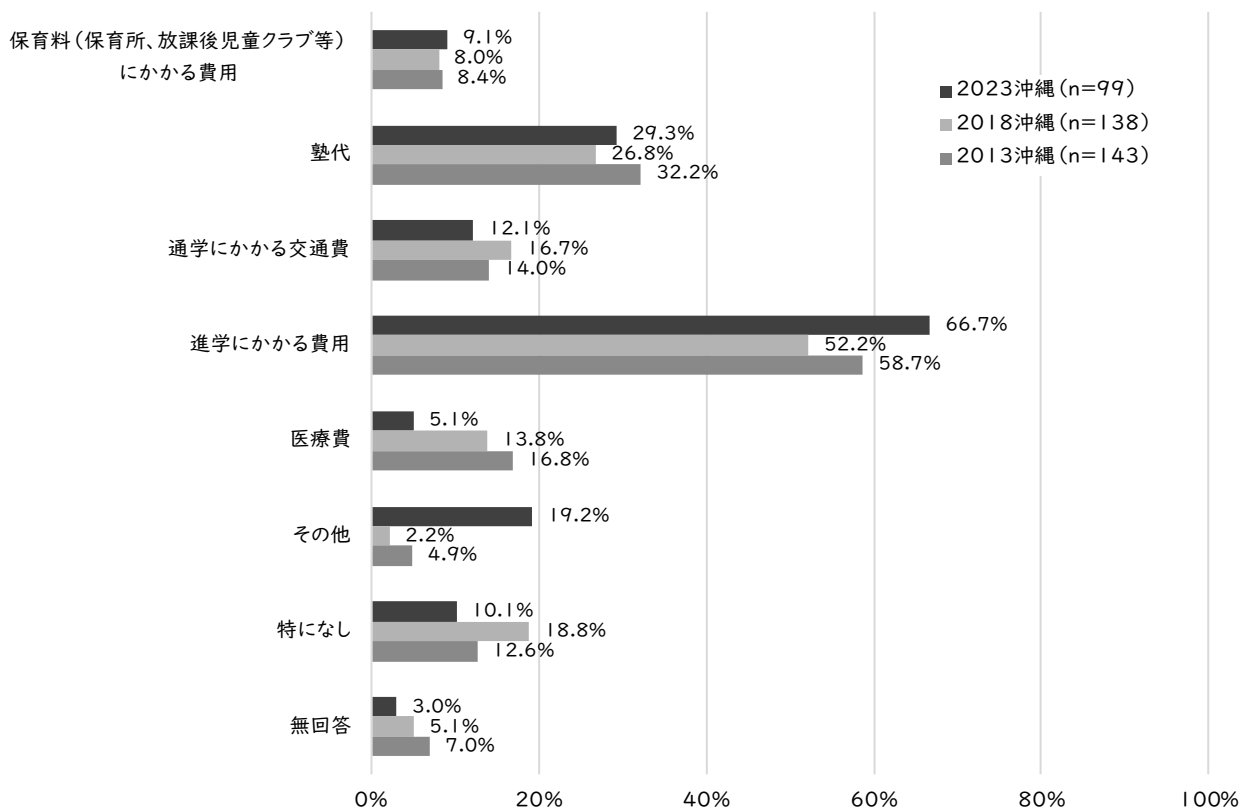


図4-3-3 【父子】子育てに関して経済的に負担に感じていることは何ですか(2つ選択)





## 第4節 お子さんの進学先

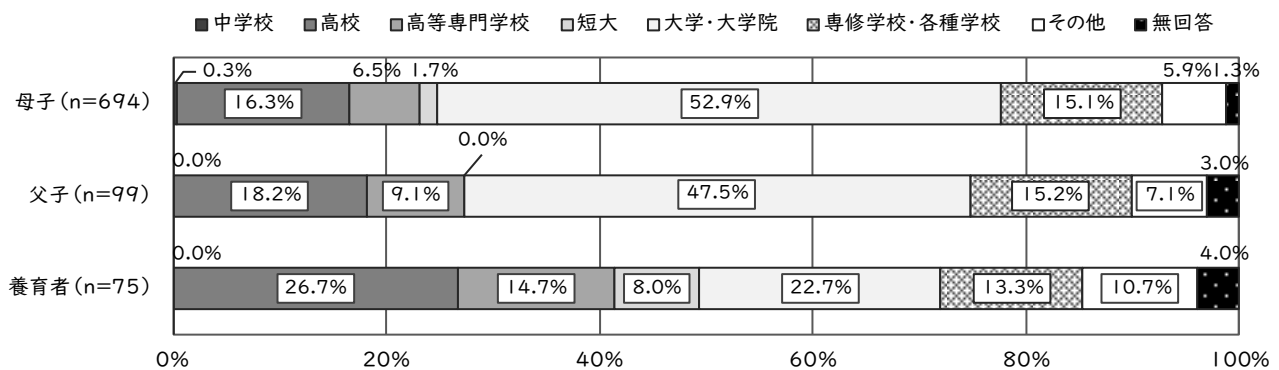
図4-4-1は、子の進学先希望について見たものです。母子世帯、父子世帯ともに「大学・大学院」という回答が最も高く、特にその割合は、父子世帯（47.5%）よりも母子世帯（52.9%）で高くなっています。一方、養育者世帯では、「高校」が26.7%と最も高く、「大学・大学院」は22.7%にとどまっています。

図4-4-2、図4-4-3は、母子世帯と父子世帯の子の進学先希望について2023年沖縄県調査と2021年全国調査の状況を比較したものになります。

沖縄県の母子世帯は全国と比較して「大学・大学院」や「専修学校・各種学校」を希望する割合が高くなっています。父子世帯では、全国と比較して「大学・大学院」がやや低く、「高等専門学校」や「専修学校・各種学校」の割合が高いことが特徴と言えます。

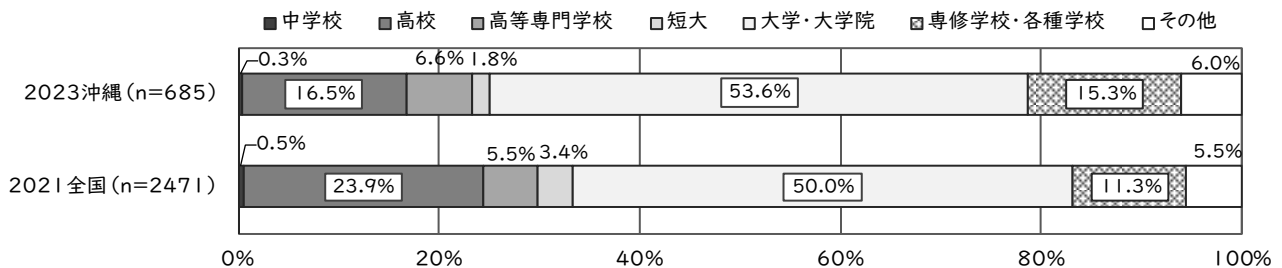
図4-4-4は、母子世帯の世帯年収別に子の進学先の希望を示したものです。年収400万円以上の世帯で「大学・大学院」を希望する割合が最も高く6割を超えています。一方、100万円未満でも51.6%が「大学・大学院」を希望していることがわかります。

図4-4-1 お子さんの進学はどこまでを考えていますか



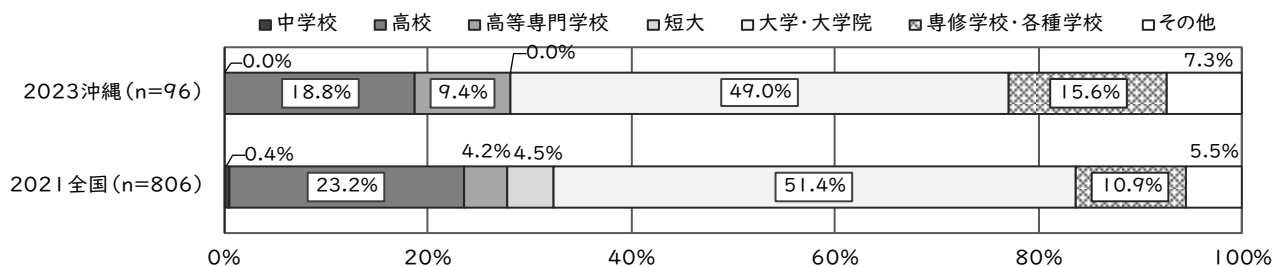
### 全国比較

図4-4-2 【母子】お子さんの進学はどこまでを考えていますか



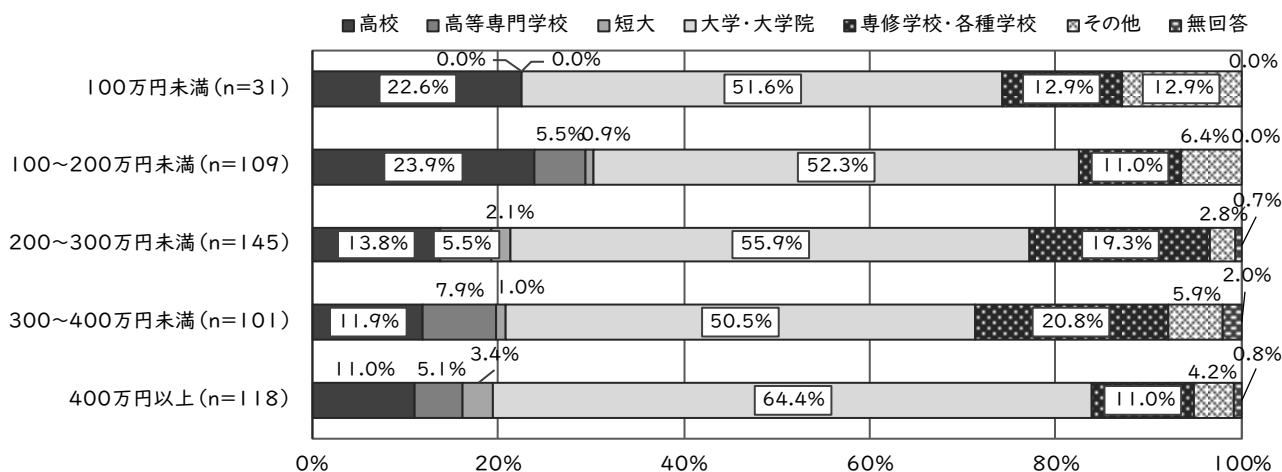
## 第4節 お子さんの進学先

図4-4-3 【父子】お子さんの進学はどこまでを考えていますか



### 世帯年収別

図4-4-4 【母子】世帯年収 × 子の進学先



※有意差なし(「中学校」を選択した人はどの所得階層もいなかった)

## 第 4 章 考 察

第4章では、子育てについて、健康や発達の状況、子育ての不安や悩み、経済的に負担に感じていること、子どもの進学先の希望について考察しました。

まず、第1節では、健康や発達状況について分析しました。母子世帯、父子世帯、養育者世帯ともに「みんな健康である」という回答が最も高くなっていました。課題を抱える世帯の実態を見ると、母子世帯で「通院している病気がある子がいる」の割合が 11.8%と最も高くなっていました。また、母子世帯、父子世帯ともに「発達に遅れのある子がいる」、「障害がある子がいる（難病をのぞく）」という回答が1割弱確認されています。

なお、養育者世帯では、「発達に遅れのある子がいる」という回答が 21.3%と高く、「障害がある子がいる（難病をのぞく）」という回答（14.7%）も母子世帯や父子世帯と比較して高いことが明らかになりました。

第2節では、子育ての不安や悩みについて分析しました。母子世帯、父子世帯、養育者世帯ともに「進学（費用面）」という回答が最も高くなっていますが、そのなかでも母子世帯では 55.3%（父子 37.4%、養育者 34.7%）と特に高い割合を保持していることが可視化されました。

このほか、「しつけ」（母子世帯 19.2%、父子世帯 23.2%、養育者世帯 26.7%）も高い割合を示しています。父子世帯では、「進学（学力）」（24.2%）と関連して「学校成績」（23.2%）の割合が高いことが特徴です。また養育者世帯では、20.0%が「発育・発達」の不安や悩みをあげています。これについては、第1節でみた、養育者の「発達に遅れのある子がいる」や「障害がある子がいる（難病をのぞく）」の割合の高さと関連していると推測されます。

上記の項目について、母子世帯と父子世帯については、前回の 2018 年沖縄県調査との経年変化を確認しました。母子世帯では、いずれの年度も「進学（費用面）」が過半数を占め、これ以外には、「しつけ」や「進学（学力）」の割合が高く、それぞれの項目に大きな変化は見られませんでした。父子世帯では、いずれの年度も、「進学（費用面）」が高くなっているものの、2018年から2023年にかけてその割合は9.7ポイント低下しています。他方で、2023年にかけて「学校成績」が9.4ポイント、「しつけ」が6.5ポイント、「病気・障害」が6.3ポイント増加していました。

2020年4月より、住民税非課税世帯及びそれに準ずる世帯の学生を対象に、大学・短大・高等専門学校・専門学校の授業料等の免除及び奨学金の給付を行う高等教育の修学支援新制度、いわゆる大学無償化が実施されています。にもかかわらず、「進学（費用面）」に対して悩みや不安を抱いていると回答した方は、母子世帯では半数以上、父子世帯、養育者世帯では3割以上となりました。同制度が実施される前の 2018 年調査と比較すると、父子世帯では 10 ポイント程度減少していましたが、母子世帯は3ポイント程度にとどまり、大きく不安を取り除くほどの効果は見られていません。進学には、授業料だけでなく、生活費等の工面も必要となることから、こうした保護者の負担感が反映されているのかもしれません。

第3節では、経済的に負担に感じていることについて整理しました。母子世帯、父子世帯、養育者世帯ともに「進学にかかる費用」を負担に感じる割合が5割以上と高いことが明らかになりました。また母子世帯 32.1%、父子世帯 29.3%、養育者世帯 20.0%が「塾代」をあげています。なお、「その他」（母子世帯 20.0%、父子世帯 19.2%、養育者世帯 29.3%）という回答の高さも見逃せません。これについては、学校の教育費（学校で払う教材費等）のほか、娯楽費や携帯など日常生活を送るうえで欠かせない費用が含まれていることが想定されます。

これらの項目について、母子世帯、父子世帯に関しては、沖縄県調査の 2013 年、2018 年、2023 年の三時点における経年比較を行いました。いずれのフェーズにおいても、「進学にかかる費用」を負担にあげる割合が最も高いのですが、2018年から2023年にかけて母子世帯では更に 8.8ポイント、父子では

## 第 4 章 考 察

14.5 ポイント上昇しています。また、「その他」については、2018 年から 2023 年にかけて母子では 13.5 ポイント、父子では 17.0 ポイントの上昇がみられました。これについては、コロナ不況や世界情勢の変化に伴う物価高、エネルギー高が影響している可能性があります。一方で「保育料（保育所、放課後児童クラブ等）にかかる費用」や「医療費」については、経年的に負担感が低下する傾向が確認されました。この数字の背景には、2019 年 10 月より実施された幼児教育・保育の無償化や沖縄県が 2018 年 10 月から段階的に実施している子ども医療費助成制度による効果があると推察されます。

最後に、第4節では、子どもの進学先の希望について検討しました。母子世帯、父子世帯では「大学・大学院」という回答が最も高くなっていますが、その割合は特に母子世帯（52.9%）で高くなっています。一方、養育者世帯については、「高校」が 26.7%と最も高く、次いで「大学・大学院」が 22.7%となっています。

母子世帯、父子世帯の結果を 2021 年全国調査と比較すると、「大学・大学院」を希望する割合は、沖縄県の母子世帯で全国より高く、逆に父子世帯では全国を下回り、「高等専門学校」や「専修学校・各種学校」を希望する割合が高いことが明らかになりました。

なお、母子世帯については、世帯年収別の進学希望についても確認をしました。その結果、年収 400 万円以上で「大学・大学院」を希望する割合が最も高くなるものの、年収 100 万円未満でもその割合は5割を超えています。大学進学は広く一般化する傾向があること、また、進学することにより、キャリアが高まり、就職の幅が広がることへの期待がこの数字の背景にあると考えられます。

とはいえ、塾代等進学準備や進学にかかる費用は高負担で、どうしても、低所得階層にとってはハードルの高いものになりがちです。沖縄県では、無料学習塾の設置などを進めていますし、2020 年度からは、大学の無償化制度がはじまっています。こういった制度の周知を徹底し、利用を促していくことも重要かもしれません。